

若者につながる場と
いきるシゴトをつくる

認定NPO法人 D×P

[活動報告書]

2017-18

D×P ANNUAL REPORT 2017-2018



Dream times Possibility

「ユメ」と「可能性」

「ひとりの人間として、ネガティブな部分もポジティブな部分も両方認めながら、
高校生と関わっていく」という決意をこめて。
明暗を抱えながら人を受け入れる夕暮れの空の色をイメージして2色を配しました。

「d」と「p」の斜めのまっすぐなラインは、
「常に時代の変化に即して革新的な取り組みを行い、社会的インパクトを出す」
という決意を表しています。

線の中央は、高校生と社会をつなぐ「結び目」を意味しています。

Dream(心に描くユメ)とPossibility(可能性)が無限に広がるようにという願いを込めて
「∞(インフィニティ / 無限大)」の字が隠してあります。

認定NPO法人D×P(ディーピー)

〒540-0032
大阪市中央区天満橋京町1-27 ファラン天満橋33号室

札幌拠点：〒064-0804
札幌市中央区南4条西6丁目8-3 晴ばれビル9階(株)オフィスBee内

京都拠点：〒604-8245 京都市中京区六角油小路町345-2
傍楽内 認定NPO法人D×P

メール：info@dreampossibility.com

WEB：www.dreampossibility.com
Twitter：@npo_D×P
Facebook：www.facebook.com/npodxp

銀行口座：三菱UFJ銀行 大阪京橋支店 普通 0072241
楽天銀行 第二営業支店 普通 7079724

理事 今井 紀明、塩田 陵、村中 直人

監事 毛受 芳高

スタッフ 川上 竜典、入谷 佐知、小園 明日香、金子 祐樹、玉井 慎太郎、
佐々木 貴史、森下 祐子、野津 岳史、西村 征輝、中川 沙登美、塩谷 友香、
岩本 崇志、藤井 彩、村井 彩乃、岡田 遥、垣内 穂佐奈、黒島 萌、三原 里菜、
菅野 晶、中澤 太一、磯 みずほ、下西 夏帆、熊井 香織、原口 茜、高橋 正光、
池田 歩、伊森 香南、今井 健翔、大野 英子
[以下、2017年度内に卒業したスタッフ]
齋藤 寛子、杉浦 智之、喜田 泰幸、奥野 達也、水阪 佳世、櫻木 良憲、
丸山 祐生、藤井 里名、東 和香奈、岡田 有加

顧問弁護士 高橋 健

写真 西川 優介、磯 みずほ

デザイン・制作 NPO法人Co.to.hana

D×Pと、ひとりひとりの高校生をご支援くださっている皆様へ
感謝を込めて。

クレッシェンドは「ここに存在するだけでいい」と
高校生に伝えているような場だと感じます。

でも高校生が卒業して社会に出たらきれいごとだけでは済まないこともたくさんあるわけで。
それに耐えうる力が必要なかもしれない。ジレンマを感じますね。

3年前、クレッシェンドで高校生と関わる
「コンポーザー」のひとりが、そう語ってくれたことがある。

創業から続けてきたプログラム「クレッシェンド」は、人とつながる場をつくるプログラムだ。
つながりは、目の前の人に関心をもって関わるなかで生まれてくる。
通信・定時制高校の授業の枠組みのなかで行うことで、自然と高校生とオトナが出会えるようにした。

D×Pは、高校生を変えようとしなない。
オトナがなにかを教えるわけでも支援するわけでもない。
純粹に人として関心を持ち、「この人のこと知りたいな」と思いながら関わり合う。
そんな純粹な関係性のなかで、高校生が「他の人とも関わってみようかな」と思えたり、
「自信はないけどやってみようか」と思えるようになる瞬間に、たくさん出会うことができた。

しかし、そうして前を向けるようになった高校生が、
「いざ就職する」となったときに、出鼻をくじかれてしまうことが多くあった。

受け取る企業の情報は、給与と地域と業種だけ。
注意力が散漫だから、「あなたに仕事は任せられない」と言われた。
起立性調節障害で朝起きれないから、「社会人としてちゃんと起きなさい」と言われた。
LGBT就職相談窓口は、「高校生」の就職には対応していなかった。
「働きたくない」と言ったら、見放されてしまった。

朝起きられないだけで、この子は色々な強みがあるのに。
もっと様々な企業があり、様々な働き方が考えられるのに。
注意力が散漫でも、楽しく生きている人がいるのに。

歯がゆかった。もちろん、高校生本人が自ら「変わりたい・成長したい」と思うなら、全力で応援してゆきたい。
でも、高校生ひとりに「あなたが変わらなければこの世では生きていけない」と突きつける社会って、おかしくないか。

先のコンポーザーの言葉は、よくわかる。苦しみながらもこの社会に適合して生き抜いてきた彼女の発言は、とてもリアルだ。

でも社会に耐えうる力を高校生に身に付けさせるのは、本質的だろうか？
そうじゃなく、ひとりひとりの若者が、ただ生きてゆけるような”社会”をつくりたい。

2017年11月、いきるシゴトをつくる事業「ライブエンジン」が始まった。
高校生ひとりひとりが活きる環境、生きてゆける環境をつくり、
従来「仕事」とはいえなかったような「シゴト」を新たに創ってゆこうという思いで始まった。

定時制高校2校と連携し、D×Pの進路相談室を設置。
ある高校では、就職率を13%向上させることができた。変わりたいと思う生徒には機会を提供した。
事例としてはまだまだ少ないが、クラウドファンディングでのお金集めを行うなど、
世の中に次々生まれる新しいシゴトや資金調達の方法も体感してもらった。

なにより両校では既にクレッシェンドをやっていることが大きかった。
クレッシェンドのなかで高校生と関係性ができているから、D×Pと聞いただけで
「なんや、D×Pの人らかー」と好意的で、真面目な進路相談もしやすいようだった。

「クレッシェンドは、砂漠に水を撒くようなプログラムやな。」と、
ずっとD×Pを応援してくれている方に、笑って言われたことがある。
高校生を変えようとせずに、ただ人と人との関係性を紡いでいく場を、わたしたちは祈るような思いで続けてきた。

でも隣に新しい事業が実現したことで、
その砂漠にはもう小さな芽が出てきている。

課題は山積みだけど、ただ土を耕そう。

D×Pの大切にする姿勢

2017年度、D×P(ディーピー)では、スタッフひとりひとりが働くなかで「大切にする姿勢」を定めました。
また、創業以来大切にしてきた「基本3姿勢」をアップデートして新たな形に変えています。

人の可能性をあきらめない

その人が自分の可能性を見い出せていないならば、
その人がいきる環境や場になっていないということ。
D×Pのスタッフは、人の可能性が広がる
環境や場をつくることを仕事にしよう。

自分が納得のいく仕事をする

あなた個人として、納得のいく仕事をしよう。
いちNPOのスタッフである以前に、
一人の人間だから。違和感を表明しよう。
オーナーシップをもって最高の仕事をしよう。

生徒と社会をつなぐ事業部

「ひとまとまり」でなく、
「一人ひとり」と向き合う

否定せずに、関わる

様々な年齢やバックグラ
ウンドの人から学ぶ

経営管理部

スタッフの可能性を最大化する

常に変化・常に改善

仕事の正確さは、組織の誠実さ

広報ファンドレイジング部

現場の一番の理解者で
あり翻訳者になる

「大勢」でなくだれかひとりに届ける

提案よりも、実現

誰でも、なんにでもなれる



D×P経営企画

今井 紀明 川上 竜典 入谷 佐知

ひとりひとりの若者が自分の未来に希望を持てる社会をつくる

D×Pは、通信・定時制高校の高校生に「つながる場」と「いきるシゴト」を届けるNPOです。

D×Pが取り組む課題

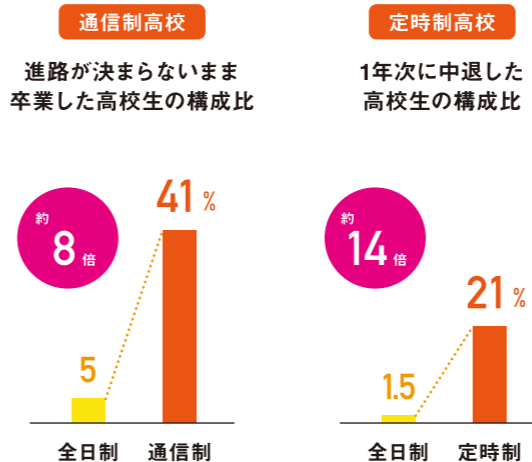
「自分の“これから”に希望があると思えない」

日本には、そんな状況に置かれている高校生がいます。

定時制・通信制高校には、さまざまな事情を抱えた高校生がいます。経済的に苦しかったり、発達障害・学習障害を持っていたり、過去の経験から人間不信になっていた、外国にルーツがあって言葉にハードルがあったり、バックグラウンドはそれぞれ違います。



つながりがつくれず、自分の未来に希望を持てないまま社会へ放り出されています。



高校生ひとりひとりには、可能性があります。



つながる場をつくる



生きていけるようなイメージが湧かない。将来のことを考えると自信が持てない。

通信・定時制高校のなかにつながる場をつくる

クレッシェンド



通信・定時制高校の高校生に高校生が人とつながる場を教室のなかに作り、一人ひとりに寄り添いながら関係性を築いていきます。ボランティア「コンポーザー」と高校生との対話を軸にしたプログラムです。

学校や地域のなかに安心できる場をつくる

いごこちかふえ



安心できる居心地の良い空間を学校や地域のなかに作り、高校生が定期的に人とつながることができる場をつくれます。地域のお店と連携して食事を無償提供する、「食堂と保健室の間」のような場もあります。

学校とオンラインにある進路相談室

ライブラボ



定時制高校と連携し、高校生が気軽に進路相談できる場を学校のなかにつくります。LINE@での個別相談も行います。高校生一人ひとりのニーズや特性に寄り添い、様々な機会につなげます。

いきるシゴトをつくる



顔を上げて将来のことを考えてみようとするけど、あんまり選択肢ないな...

「できた!」と思える経験をつくる



高校生一人ひとりにとっての挑戦の機会や、仕事のイメージを拡げる機会をつくれます。海外のスタディーツアーやインターンシップ、仕事体験ツアーの場をつくれます。

新しいシゴトを共につくる



起業やフリーランスとしての生き方、もしくはそれ以外の生き方を共に高校生と模索し、新しいシゴトをつくります。必要なスキルを得たり、人とつなげていきます。

企業と高校生をつなぐ



高校生の特性に基づいて、高卒生受け入れに理解のある企業と高校生をつなげます。企業開拓と高校生とのマッチングを同時並行で行っていきます。

Highlights of 2017

2017年度・D×Pの取り組み

高校生の卒業後をサポートする新事業を立ち上げ、組織の価値観を言語化。新たな一步を踏み出した1年。

2017年度は、新事業「ライブエンジン」を開始することができました。また、「クレッシェンド」では、大切にしてきたことを歪ませずにどのように仕組み化・育成をしていくかを試行錯誤した1年でした。泉大津の「いごこちかふえ」では半数が就労を経験、ライブラボ導入校では進路未決定率が全国数値と比較して減少と、成果も出てきました。

1 新事業「ライブエンジン」のスタート

定時制高校2校と連携、就職率13%向上

高校生一人ひとりが「いきる(生きていける/活きる)シゴト」をつくるための新事業をスタートしました。まずは大阪府内の定時制高校2校のなかに進路相談室を設置。許可を得た生徒にはLINEでの相談も受け付け、2017年度は25名に72回の進路相談を実施しました。

また、相談を受けてそのあと「なにかをやってみた生徒の数」は15名(60%)、就職/仕事先が決定したのは4名(16%)でした。ある高校では、就職率を13%向上*1させることができました。

*1 同校では就職が難しそうだと先生が考える生徒をD×Pに紹介していただき、進路相談を実施。その生徒を除くD×Pがいなかった場合の就職率は60%だったが、D×Pが関わったことでその紹介された生徒が就職したため、就職率が73%となり、13%向上としています。

2017年度は...
25名の生徒に72回の進路相談を実施!!

その結果...

なにかをやってみた生徒の数 **15**名(60%)

就職/仕事先が決定した生徒の数 **4**名(16%)

ある高校では、就職率を **13**%向上

2 つながりをつくる授業「クレッシェンド」

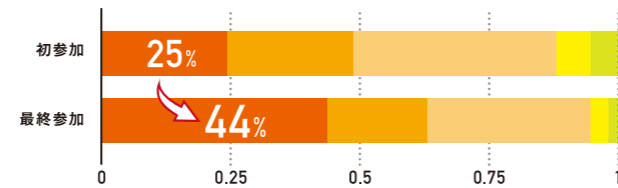


岡山、兵庫、京都の定時制高校で初開催

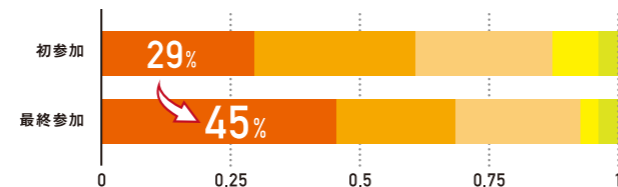
クレッシェンドは通信・定時制高校15校で、616名の生徒に実施し、新たに岡山県・兵庫県・京都府の定時制高校でクレッシェンドを実現しました。最初の授業と、最後に参加した授業で実施したアンケートを比較すると、「自分にも何かできるかもしれないと思いますか?」は強く思うのが25%だったのに対し、最後の授業では44%に向上。「人に自分のことを話してもいいと思いますか?」は強く思うのが、29%だったのに対し、最後の授業では45%に向上しました。

通信・定時制高校
15校の生徒に616名の生徒に実施

自分にも何かできるかもしれないと思いますか?



人に自分のことを話してもいいと思いますか?



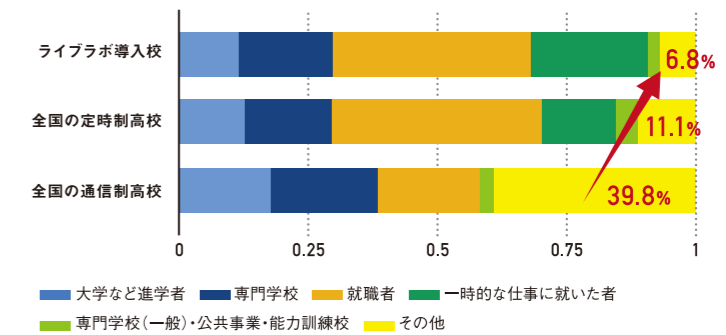
■ 未記入 ■ a, 強く思う ■ b, そう思う ■ c, どちらともいえない ■ d, あまりそう思わない ■ e, 全くそう思わない

3 進路未決定率が全国値と比べ大幅に低下

全国の定時制高校の進路未決定率(「その他」の構成比)が11.1%、全国の通信制高校の進路未決定率が39.8%*2なのに対し、D×Pのライブラボを導入した高校の進路未決定率は6.8%*3と全国の数字に比べて低い結果を出すことができました!



卒業生の進路状況構成比



*2 いずれも、平成29年度文部科学省「学校基本調査」より
*3 ライブラボ導入校の2017年3月時点で卒業した高校3-4年生の進路状況構成比

4 安心できる居場所をつくる「いごこちかふえ」50%の生徒が就労を経験

泉大津市の生活困窮世帯の中高生向けと、ある定時制高校内で食事提供を兼ねて行う「いごこちかふえ」の2箇所にて実施しました。

泉大津市のいごこちかふえでは、継続的に関わるなかで50%の生徒が就労を経験、25%の生徒が高校に進学を決めました。また、2016年4月に進学を決めて、いごこちかふえには通わなくなった生徒に対しても、ラインでフォローを行ったり、卒業後に向けた就職支援や復学支援も行っています。

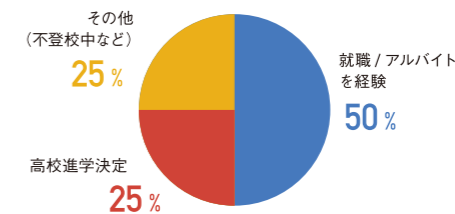
定時制高校内で行ういごこちかふえでは、全校生徒150名*4中105名(70%)が参加し、リピーター数は44名(29%)*5でした。また、雑談をするなかで気になった生徒は定期的に先生に報告しており、報告件数は24件でした。

*4: 1~3年生の合計
*5: 年間開催回数の半数以上に参加した生徒の実数

定時制高校で開催するいごこちかふえの参加者数やリピーターは...

全校生徒 **150**名のうち、**105**名(70%)が参加
リピーター数は **44**名(29%)

泉大津市いごこちかふえ生徒の状況



5 全社ミーティングの定例開催/価値観の言語化

事業の展開に伴い全スタッフ数は16名→25名になり、正職員数も6名→8名に増加しました。組織の拡大に伴い、日々のコミュニケーションや大切にしてきた価値観の引き継ぎの難しさ、ノウハウの言語化や仕組み化が追いつかないなど様々な課題が出てきました。

2017年度は全体ミーティングを年3回定期開催したほか、これまで大切にしてきた価値観(p2)を全員で言語化することにも取り組みました。



スタッフが実践すること

- こぞさん(小園)が実践するのは、「否定せずに、関わる」。人の言動や在り方にはその人なりの理屈や事情、そして背景がある。まずは、それらに心を向け、知ろうとすることを大切にしています。
- ネコ(金子)が実践するのは、「否定せずに、関わる」。つまらなそうに見えるとき、生徒が教室にいる理由は何なのかを考える。つまらないって言われたとき、生徒が言葉を伝えてきた理由は何なのかを考える。
- さっさん(佐々木)が実践するのは、「人の可能性を諦めない」。たとえ今どんな状況でも、みんなに可能性があるって信じてます。可能性のタネを見逃さないように、全力で向き合っています!高校生コワーキングスペースなど、可能性を広げる場もついています。
- あかね(原口)が実践するのは、「提案よりも、実現」。サポーター限定ライブもあかね企画! 見る人に伝わらない意味がないと思うのでカメラの向こうにいる方の視線を忘れないようにしています。
- いそちゃん(磯)が実践するのは、「現場の一番の理解者であり翻訳者になる!」まずは、生徒と仲良くなる! 後方では、大好きな友人を紹介するように、彼女たちのことを言葉にしています。
- たま(玉井)が実行するのは、「ひとまとまり」でなく、「一人ひとり」と向き合う! ファシリテーターとして前に立ちながらも、「生徒のみんな」ではなく、1人に伝えたい気持ちが落ち着いたのだそう。

CRESCENDO クレッシュェンド

高校生が人とつながる場を教室のなかにつくり、一人ひとりに寄り添いながら関係性を築いていきます。
ボランティアである「コンポーザー」と高校生との対話を軸にしたプログラムです。

クレッシュェンドの特徴

連続して高校生と関わる

1〜3ヶ月、およそ全4回のプログラムです。

少人数での濃い関わり

コンポーザー1人あたり
生徒3〜5人の構成比で運営します。

単位認定された授業

「総合的な学習の時間」などの
授業運営を受託しています。



ある高校でのクレッシュェンドの様子

第1回プログラム

はじめまして、こんにちは!

まずは自己紹介ワークを通して、
高校生が「次回も来てほしいかな」と思えるような場をつくります。



第2回プログラム

人生色々あるんです

大人からまず自分の経験談を話すことで、
生徒との関係性をつくるきっかけとなる場をつくります。



ワーク例 過去のジブン

生徒はコンポーザーの過去の経験
を聞きます。大人たちの過去の悩みや
葛藤、判断基準や、現在の仕事の話や
生き方などのさまざまな話を聞きます。
高校生本人が話せる場もつづいて
います。

第3回プログラム

これまでとこれから

高校生と大人のこれまでの経験やこれからについて、
考えを共有できる場をつくります。



ワーク例 自分史

模造紙に矢印を引き、時系列順に自
分の経験を話していきます。「今ハ
マっていること」「過去に頑張ってい
たこと」などのテーマに沿って付箋に
記入し、付箋を模造紙に貼りながら
話します。

第4回プログラム

みんなでユメブレ

高校生と大人が自分のこれからのこと、
考えを表現できる場をつくります。



ワーク例 ユメブレスト

「自分のこれからのこと」を全員が考
える時間です。全員で円になって、ユ
メの絵を見せながらそれぞれの言葉
で話していきます。自分を表現して
それを受け入れられる機会をつづいて
います。

Mちゃんの様子

学校に来ていたけれど、「クレッシュェンドに参加するのが嫌」とのことで、1回目のプログラムは参加せず帰宅。(2回目は先生が半ば強制的に連れてきていました)

Kくんの様子

別のグループのほうがよさそうな様子でしたが、グループに入ると積極的に話しかけてくれました。1回目〜3回目の授業までは、促されないとコンポーザーNさんのいる席には座りませんでした。

Mちゃんの様子

始めは少し警戒しているような表情でしたが、コンポーザーSさんが過去「学校がいやだった」と不登校だった経験談を話すと、Mちゃんが感想を書くシートに「似てるなあ」と書いていました。スマホを見ていることも多いですが、話には耳を傾けているようでした。

Kくんの様子

コンポーザーNさんの過去の話に、最初から最後までツッコミをいれていました。最後まで話を聞いていました。大人の話聞くのが好きだということをしていました。

Mちゃんの様子

自分史で「このグループ全員不登校経験者だね〜」と話していました。「正直クラスメイトうざくてしんどい」と言い、コンポーザーのSさんが「私もそういう時期あったんだよ」と話すと、最後に付箋に「同志」と書いて笑顔で貼っていました。

Kくんの様子

自分史で「これからやってみたいこと」を書く場面では「人を変えられる人になりたい。よくもわるくも人を変えられるのは人だから、自分は人を良い方向に変えられる人になりたい」と、彼の核となっていたような気持ちを話していました。

Mちゃんの様子

全員で車座になってユメを伝えるのは「絶対やりたくない」「事前に知っていたら来なかったのに」と言っていました。Sちゃん(コンポーザー)の隣に座る」と言って椅子に座り、全員の前で自分の話をしました。その後も、不満も含めて自由に話していました。

Kくんの様子

最終日はどのグループにも寄らずにまっすぐにコンポーザーNさんの前の席に座っていました。ユメブレストでは「ほんとはみんなを笑顔にするパーをしたい。自分は人を楽しませることができると話し、ラップも披露して場を温めていました。

コンポーザーとは?

コンポーザーとはDxPのプログラムを通して、生徒ひとりひとりと新しい「つながり」をつくるオトナです。

1. 高校生の話に耳を傾ける

コンポーザーは、一方的に「教える」立場にあるものではありません。高校生の話に耳を傾け、高校生ひとりひとりの考えを受け入れる存在です。

2. 過去と現在の自分を話す

コンポーザーが高校生に、過去の辛かった経験や現在の仕事に至った経緯を話し、自分のことを知ってもらいます。

3. 高校生と共に考え、学ぶ

高校生と関わるなかで、オトナであるコンポーザー自身も新たな気づきや学びを得ていきます。

クレッシュェンドで大切にしている姿勢

「ひとまとまり」でなく「一人ひとり」と向き合う

全体や一部の人たちをみるのではなく、一人ひとりに目を向けて、場を創ることを大切にしよう。

否定せずに、関わる

相手や自分の価値観や考え方、在り方を否定せずに、関わることを大切にしよう。

様々な年齢やバックグラウンドの人から学ぶ

年下、年上、生まれた背景や環境、社会的な肩書や枠組みに捉われず、その人の価値観や考え方から学ぼう。





学校や地域のなかに安心できる場をつくる

いごこちかふえ

IGOKOCHI CAFE

ここでは、ある定時制高校の学内に開く「いごこちかふえ」の様子を紹介します。地元産のおにぎりやサンドイッチなどの食事を提供しながら、生徒が安心できる居心地のよいスペースをつくっています。

特徴

1 安心して話せる場

スタッフは「否定せず、関わる」などのクレッションドで大切にしている姿勢を、いごこちかふえでも大切に生徒と関わっています。学校に来て授業に入れない生徒にも、安心して過ごしたり話したりすることができる人がいる場と認識されるようにしています。

2 食事の無償提供

限定50食の食事を毎メニューを変えて用意しています。時間やお金に余裕がないのでご飯を抜いている生徒も多いため、食事の無償提供を行っています。また「無料の食事をもらいに行く」を口実に、相談事がなくても行けるような場づくりにも一役買っています。

これからのいごこちかふえ

1 いごこちかふえに来れない生徒に対する取り組み

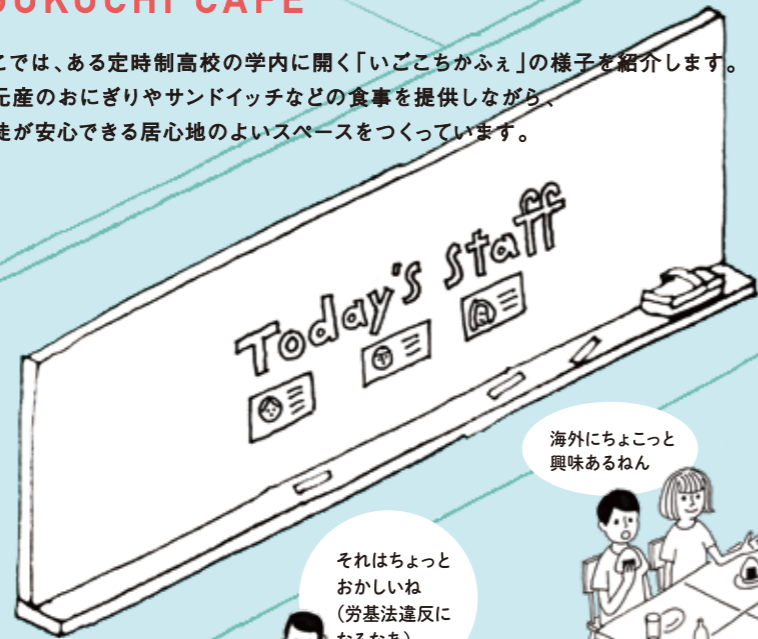
いごこちかふえや学校に来ることができない生徒には現状何もできない状態です。現在全校生徒の9割以上が利用したことがある状態ですが、学校に来れない生徒への取り組みを学校の先生とともに考えていきます。

2 学校の先生 / ソーシャルワーカーとの連携強化

いごこちかふえが何をしているかが学内にいるすべての先生に伝わるように情報共有の仕組みを整えます。また、先生・ソーシャルワーカーの方との生徒情報を共有し話し合う場をこれまで以上に増やしていきます。

3 連携を強化し次の一歩につながる機会を提供

地域の企業でのインターンシップの機会づくりや、プログラミングを学ぶ場、海外のスタディツアーに行ける機会を紹介するなど、さまざまなセクターと連携しながら高校生の一歩につながる機会を提供していきます。



シフトにいきなり全く入れてもらえなくなって…やめろってこと？

それはちょっとおかしいね (労基法違反になるなあ)

海外にちょっと興味あるねん

無料で行けるツアーあるけど行ってみる？

ハロー

なんか今日大人っぽいやん

食事のメニューを書いたものを生徒が自らつくってくれたり、最後の片付けを手伝ってくれる生徒もいます。いごこちかふえは生徒と一緒に作り上げている場だと感じます。

ライブエンジンでの就職相談



地元企業でのインターン

担当スタッフの
こぞに聞いてみました

● どんな相談がある？

話の内容は人間関係のこと、恋愛のこと、仕事のこと、進路相談などさまざまです。例えば、「遠方に住んでいる友達が家族との問題で悩んでいるんだけど、どこに相談したら良いかな？」と聞かれたり、「障害手帳を持っているんだけど、就職の面接の時に会社に伝えた方がよいのかな？」と相談を受けることもあります。でも多くが「相談」という感じではなくて、最近あった出来事を言って発散して帰るとい感じです。逆にスタッフが心配されることもあって、「俺の将来は安心していいから、早くこぞのパートナーを見つけなさい。俺はそれがか心配です」と言われたりすることもあります(笑)

● 相談をうける以外は何をしている？

部活の人数が足りないときに参加することもあります。あるスタッフは、生徒からバスケット部に必ず誘ってもらって一緒に汗を流しています。また、無料で行ける海外スタディツアーに誘ったり、DxPの5周年記念イベントで販売するグッズと一緒にデザインしない？と声をかけたりします。

● いごこちかふえてどんなところ？

いごこちかふえは、クレッションド(授業)と違って、休み時間にやるので生徒の日常の中に溶け込みやすいです。生徒のペースで話せるので、本人に負担をかけずに関係性を築いていける場だと思っています。

今日のおにぎり何はいつのんー？



27%の生徒が「毎晩夕食を食べない」と回答。食事をとれていない生徒が一定数います。

彼女に「別の男子とLINEしてるのって嫌？」って聞かれたけどわけわからん…

彼女もわからなくて相談してるんじゃない？

チャレンジプログラムの紹介



先生やソーシャルワーカーとの連携

高校生の情報共有

福祉の専門家のサポート



「できた!」と思える経験をつくる、『チャレンジプログラム』

CHALLENGE PROGRAM

チャレンジプログラムでは、高校生ひとりひとりのニーズにあわせて、海外のスタディーツアーへの参加やインターンシップの経験を届けています。
2017年度は「ワールドチャレンジ募金」でいただいたご寄付で18名の高校生が、ショートクルーズに参加しました。
(2018年度以降は「ライブエンジン」と統合します)



Rくんの参加の理由

僕は、1年ほど前まで海外に関して全く興味はありませんでした。なぜなら、僕は大人見知りで、人とともに話すこともままならないからです。「他の国の、しかも言葉が違う所に行くと何が楽しいんだ?」と思い、全くわかりませんでした。ところがちょうど1年前『GO』という映画を見ました。主人公は在日韓国人の高校生で、家族や友人や恋人との関わりの中で悩みや疑問を持ち、民族差別などについて考えながら模索してゆくストーリーでした。主人公が「広い世界を見るのだ」と言ってピースするシーンを見て、当時15歳の僕は「カッコいい、自分も広い世界を見たい!」と思いました。



Aちゃんの参加の理由

高校2年生になり、積極的に行動することが多くなりました。中学校の時は極度の人見知りで、話すこともできなかったけれど、今ではたくさんの人と話したい、色々な経験がしたいと思うようになりました。不安よりもどどん挑戦したいという思いで溢れていますが、自分の力だけで世界を広げるにはまだ力が足りないと感じています。色々なことに挑戦したいと思いついても、何をすればいいのかわからない。一歩を踏み出すことが難しく迷っていました。そんな中、ニューイヤークルーズを見つけ、行こうと決断しました。



クルーズを振り返って (寄付された方へのお礼の手紙)

ダメ元で応募してみた、まさかこんないい経験ができるなんて思いませんでした。今年の冬休みは、いままでに経験のしたことのないことばかりで、とても充実した時間を過ごすことができました。

このショートクルーズに参加してみて、船の上では人と人の距離がとて近く初対面なのにみんなと仲良くできてすごいなと思いました。また、いろんな人と話をしているのって聞いて、自分の知らない世界や考え方を知ることができました。

そんな経験をして、自分が今まで生きてきた世界、通ってきた道が全てだと思っていました。そんなことはなく世界はもっと大きく広いんだなと思いました。そんな世界をどう自分が歩んで行くのか、どう引っ張っていくのかを考えさせられました。

普通に生活しては、わからないことが学べて良かったです。こんな経験をさせていただいたことに感謝しています。



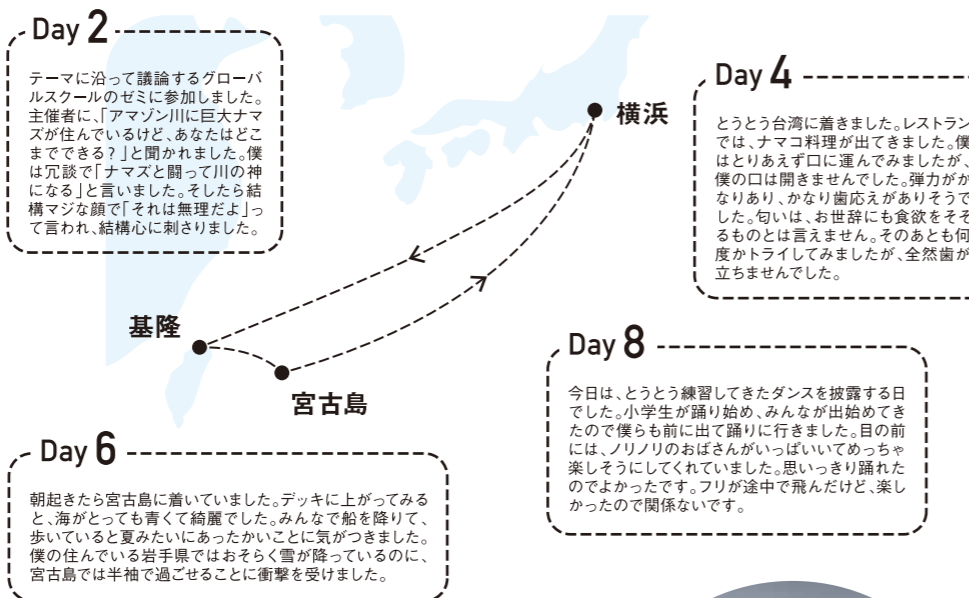
日韓クルーズ

高校生の日記より



ニューイヤークルーズ

高校生の日記より



いきるシゴトをつくる、『ライブエンジン』

LIVE ENGINE



ライブエンジンはいきるシゴトをつくるためのDXPの新規事業です。高校生がそれぞれの個性や興味をいかして働き、生きていける場をつくります。
2017年11月からスタートし、まずは定時制高校2校と連携した進路相談室を開きました。
高校生ひとりひとりの話を聞きつつ、かれらの「いきるシゴト」をどうやったら創っていくのか、試行錯誤中です。

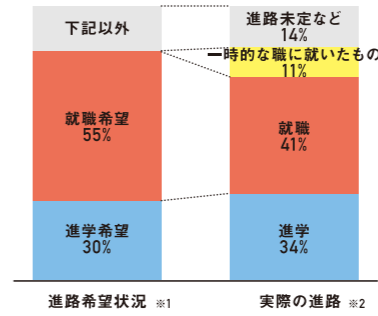
起こっている課題とは?

就職希望率(希望者55%)と就職率(就職者41%)のギャップ

就職先が決まらないまま卒業してしまう高校生がいます。

3年以内離職率4割、その半数が1年以内に離職

次の仕事が見つからず、無職状態になってしまう若者も。



※1 大阪府内の定時制高校数校へのヒアリング調査の結果(当団体独自のもの)
※2 平成29年度文部科学省「学校基本調査」高等学校の学科別状況別卒業生数より、定時制高校の進路状況

何が理由なの?

高校生と企業のマッチングがうまくできていないから

① 高校生の情報/企業の情報が十分でない

現状の高卒就労の仕組みでは、マッチングに必要な高校生にまつわる情報や、企業に関する情報を十分に得ることができません。

② 福祉的な支援が受けられない

経済的困難、発達/学習障害や病気などの事情を抱えた高校生が定時制高校にはいますが、福祉的な知識をもってサポートしてくれる人がそばにいない状態です。

③ 働くことへのネガティブなイメージがある

仕事に対するポジティブなイメージを持っていない環境下で育った高校生が多く、様々な選択肢があることを知る機会を持っていません。

学校とオンラインにある 進路相談室 ライブラボ LIVE LABO



定時制高校と連携し、高校生が気軽に進路相談できる場を学校のなかにつくります。高校生一人ひとりのニーズや特性に寄り添い、チャレンジプログラムやシゴトをつくる場につなげます。



LINE@での相談も行います。

仕事体験ツアー・インターン紹介

高校生一人ひとりに仕事のイメージを拡げる機会をつくります。自分らしく楽しく仕事をしている大人に話を聞いたり、企業に行って実際に仕事をする仕事体験ツアーを開催します。



企業と高校生をつなぐ

高校生の特性に基づいて、高卒生受け入れに理解のある企業と高校生をつなげます。企業開拓と高校生とのマッチングを同時並行で行っていきます。

※学校や企業からのフィーは頂かず、寄付で運営しています。



新しいシゴトを共につくる

起業やフリーランスとしての生き方、もしくはそれ以外の生き方を共に高校生と模索し、新しいシゴトをつくります。プログラミングなど必要なスキルを得たり、人とならげていきます。





Aちゃん

高校3年生。中学生の頃は、自分の性別に違和感があって悩んでいた。学校にもあまり通ってなかった。その時に市役所の人にいごちかふえのことを教えてもらい通い始めた。

「しょーもな、その悩み」とか思われたらどうしようと思って。

● いごちかふえて、どんな場所？

最初は、怖い人とかおったらどうしょ〜とか思って。相談にも乗ってくれて聞いてたけど、「しょーもな、その悩み」とか思われたらどうしようとか思って。でも、いざ行ってみたら、みんなめっちゃいい人で、真剣に自分のこと聞いてくれた。

● どんなおとながいたの？

今まで友達としか遊ばなかったし、学校も嫌だったんですね。朝起きるの苦手やし、やったらあかんことしてたんですね。中学生やのに。(笑) それでも、今井さんは否定せずに聞いてくれて。普通の大人って否定するじゃないですか。「そんなやったらあかんやろ」とか。

でも、そんなふうで否定せず、「それは、ほんまにしたいんか？」って聞いてくれました。「いや、したくないけど…」「それやったら、自分らしく生きたいいいじゃない？」とかがって話をしましたね。

● 進路とかの話もした？

中3やったから、高校の話もしたね。学校に行っていなかったから、行ける確率がめちゃめちゃ低くて。朝起きるのもめっちゃ苦手で。「朝どうしよう？」って。それものりさんに相談してました。

それに、自分の(戸籍上の)性別と自分のなかでの性別が違って。だから、高校へ行くとしたら、名前を変えたいし女の子として生きていけるのがあって。でも、それはやっぱり難しいことなんですね。

● 高校に行く前にも、いろいろ心配なことがあったんだね。

そしたら、通信制高校や定時制高校を教えてください。「こんな、高校があるから行ってみない？」って。「いや、行ってみたいけど、私には無理やろ」って思ってたんですけど。のりさんに、「いや、できる。なんでそうやってすぐ諦めるん？」って言われました。

何度も「できるよ」って言ってきて。名前のほうも俺がなんとかしてあげるからって言われて。「あ〜…じゃあ、わかった。じゃあ、頑張ってみよう。そこまで言うんやったら。」と思いました。

● 高校はどんな感じやったん？

最初は不安でした。女の子として高校には通っていたので、秘密がバレてしまったらどうしようって。「バレたら、どうしよう」ばかりしか思ってたんですけど、案外バレへんくて。逆に友達もいっぱいできました。

行かんかったら今の人生がなかったんやろうと、今の友達がおらんのやろなって思うと、「あ〜高校行ってよかったな」って思いました。広がりましたね、視界が。こんなのが一気(顔の前に両手を出す)にパーって広がって。(両手を大きく広げる)(笑)。

● 倍くらい広がったんだね!(笑)。



このままやったらあかんや〜って思い始めて。



じんくん

21歳。家族の問題と仕事での過労が重なり入院し、その後ひきこもりに。市役所の方からいごちかふえを教してもらい通い始める。現在は、株式会社SamuraiGamersさんのゲームライターインターンに応募して、別の道を模索している。

● DXPを知ったきっかけはいつぐらいですか？

そのときは、学校を辞めて暫く家で引きこもっていた時期で。いろいろ考えて、恩師に「何か、外に出るきっかけを作るのに良い場所は無いですか？」って聞きました。そしたら、泉大津市の生活応援窓口を紹介していただいて。生活応援窓口の職員さんに、DXPのいごちかふえを教してもらいました。

● のりさん(代表:今井)には、どんなこと相談したりした？

そうやな〜…一番最初のころは、相談は…してなかったですね。「仕事見つからへん〜」とかは言ったりはしたけど、特に相談はしてなくて。でも、あまりにも、見つからへんかったから。以前、話していた時に、ごぞんやのりさんが「よかったですら、紹介しようか？」って言ってたのを覚えていたので、紹介をお願いしてもいいですか？って感じですね。※ごぞん(スタッフ小園)、のりさん(スタッフ今井)

● どういうところを紹介してもらったの？

今働いているところが、のりさんに紹介してもらったところなんです。ゴミを集める会社です。

● 今の仕事は、始めてよかった？

だいぶ…良かったです。この仕事決まってるんかったら…面接も多分受かってないから、ずっとそのままやっただと思えます。合わない人もいますが、ほとんどはいい人で、50歳ぐらいの人に良くしてもらっています。

● これから、してみたいことはある？

なんか、自分がしたいこととかは、今はわからなくて状態ですかね〜…。前は、声優になりたくて。ただ、今から…って考えると遅いかも。だから今、自分が声優を諦めて何がしたいん？って聞かれると何がしたいんやろ？って。自問自答を繰り返すしかないって感じですね。興味があることはいつかあるけど…それに関しては、仕事としてやっていくか、それこそ趣味としてやっていくかっていろいろ悩んでいるところです。

クレッシェンドで、こんな大人もおるんやって思った。

● 1年生と2年生のときに「クレッシェンド」を受けてくれたんだよね？

1年生のときは、ズル休み…でした。友達から「面白いし、イケメンもおるで」って聞いて、最終日だけ行ってみました。今年は、イケメンは、残念ながらもいませんでした…(笑)。でも、よく喋ってたお兄さんはお気に入りですね。また来てほしい!

● コンポーザーが話していたことなかで、共感したことはあった？

コンポーザーさんから中学校時代にいじめを受けていたって話を聞いて「ああ、私もそういうことあったな」っていうのは思いました。

● 「いじめ」ってどういう感じだったの？

中学の頃の友達遊びかな?でも、私はそれが嫌で。その時、嫌なことを「嫌だ」ってあんまり言えなかったんですよ。それでだんだんエスカレートして、ものを隠されたりして。「これ、もう遊びちゃうん」って思って、学校行くのが嫌になりました。もう、サボっちゃって。だから、中学はあんまり行ってないですね。



● 高校に入ってみてどう？

面白い人もいっぱいいるし。今は、めっちゃ仲良しのなんでも話せる友達もいます!

● 一緒にグループだったコンポーザーってどんな人だった？

子どもがそのまま大人になった感じ!あと、私が「こういうふうに応援して欲しいな」って思っていたことをそのまま言ってくれて嬉しかった。「辛いこともあると思うけど、うっしーならやれる、がんばれ。」って。友達気分です話してくれし、同世代みたい!

● 普段、家族以外の大人と話すことってある？

バイト先の40代とか50代が多いんですけど。お子さんの話を聞いたり、あとは芸能人の話とか。私あんまりニュースとか見ないから、話には全然入れない。「ふーん」って聞いてますね。

● コンポーザーと話していたときは…?

自分から、ぐいぐいきましたね。自分の今気にしているものとか、これからやりたいこととか。そういう話をするのがすっごく楽しくて!こんな大人もおるんやって、思いましたね。



うっしー

高校3年生。高校1・2年生の時にクレッシェンドを受ける。その後、学内ライブラボで進路相談をした。これからpolcaで集めたお金で声優の養成学校に通う予定。

たくさんの方に支えていただきました。

DxPが、経済的にしんどさを抱えた高校生が集まる公立高校でクレッシェンド、いごちかふえ、ライブエンジンが実現できているのは、ご寄付・ご助成いただいている方のおかげです。一部となりますが、サポーターの皆様をご紹介します。

● スポンサー企業・個人の皆様(一部/順不同)

(故)福武純子様		Global Alliance Inc. グローバル・アライアンス株式会社様		KCS 株式会社近畿サービス様	
NAOMI 株式会社NAOMI様	chatwork チャットワーク株式会社様	coco well 株式会社ココウェル様	Japan Parking Service 株式会社日本駐車場サービス様	有限会社サワキ様	
N 野澤会計事務所様	ハートポケット倶楽部 花王ハートポケット倶楽部様 花王株式会社様	CLC 株式会社CLC様	株式会社りんゆう観光 植田 英陸様	Kurokawa Ltd. 株式会社Kurokawa様	
Nishiki Foods Nishiki Foods様	株式会社アウラ 星川 祐貴様	hp 北海道ポラロン株式会社様	きょうどう経営株式会社様	ひらかた京町家	
humanforum 株式会社ヒューマンフォーラム様	G GODO BSI co., Ltd. 合同衛生株式会社様	KEIHAN 株式会社ビオスタイル様	昭和技研株式会社様	HERADA 株式会社原田教育研究所様	
Simpline シンプライン株式会社様	narusemi 株式会社なるほどゼミナール様	SOCIUS VALUE株式会社様	株式会社自在 遠藤正彦様	太田ネフロクリニック 太田ネフロクリニック様	
SAMBAR LAB 株式会社SAMBAR様	さわらびグループ SAWARABI GROUP 医療法人さわらび会様				

● 助成団体

Panasonic NPOサポートファンド
フィル・ファンデーション
日本財団2016年度 子供の未来応援基金
財団法人熊西地域振興財団、長谷福社会
ウォーター・ドラゴン財団
ドコモコミュニケーションファンド

● マンスリーサポーター・単発寄付をいただいた方

656人

2017年度はマンスリーサポーター(定期寄付会員)の皆様が404名、単発自由寄付をいただいた方が21名、クラウドファンディングをしていただいた方は231名となりました。「年を重ねるって大変なことあるけど、めっちゃ楽しいよと高校生や若い子たちに思っしてほしい、自分も体現していきたいと考えてます!」少しつまづいたり吹きこぼれたとしても、人とつながって落ち着いて歩んでいける社会にしていきたいですね。」ご寄付と一緒に、そんなあたたいお言葉をいただいています。

MEDIA メディア掲載歴(一部)

2017.10
読売新聞(朝刊)
「挫折経験から 夢考えて」



2018.1
AERA(アエラ)
「現代の肖像」



2017.6
Forbes JAPAN(フォーブスジャパン)
特集「新しい「お金の使い方」」



● 2017年度 活動計算書 (2017年4月1日から2018年3月31日まで)

科目	金額	
(単位:円)		
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	40,000	
賛助会員受取会費	0	40,000
2. 受取寄附金	47,196,189	47,196,189
3. 受取助成金等		
受取助成金	8,703,870	8,703,870
4. 事業収益		
教育支援事業収益	5,668,433	
講演活動事業収益	1,496,984	7,165,417
5. その他収益		
受取利息、他	95,918	95,918
経常収益計		63,201,394
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	20,695,561	
法定福利費	2,871,576	
雑費他	23,567,137	
(2) その他経費		
旅費交通費	6,713,311	
賃借料	559,862	
印刷製本費	191,539	
消耗品・備品費	160,865	
雑費他	5,120,894	
事業費計	12,746,471	36,313,608
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	9,655,320	
法定福利費	1,325,751	
雑費他	10,981,071	
(2) その他経費		
旅費交通費	3,653,096	
賃借料	894,940	
消耗品・備品費	558,889	
通信費	512,160	
雑費他	9,250,067	
管理費計	14,869,152	25,850,223
経常費用計		62,163,831
当期経常増減額		1,037,563
III 経常外収益		
-		0
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
-		0
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		1,037,563
法人税、住民税及び事業税		70,044
当期正味財産増減額		967,519
前期繰越正味財産額		45,252,055
指定正味財産増減額		-15,000,000
一般正味財産増減額		0
次期繰越正味財産額		31,219,574

※ 今年度はその他の事業を実施していません。

昨年度より13,063,882円増収しています。個人寄付者は昨年度より増えて402名となりました。また、個人の資産家の方や法人からの寄付も増えて10万円以上の大口の寄付21,921,892万円(全体寄付収入の46%)となっています。大阪マラソンを通じたご寄付も頂戴し、多くの方から応援をいただいた1年でした。

居場所事業運営/就労支援事業実施に、トヨタ財団様、ウォーター・ドラゴン財団様、ドコモコミュニケーションファンド様、熊西地域振興財団様、長谷福社会様、Panasonicサポートファンド様にご助成をいただきました。

昨年度より1,272,027円減収しています。引き続き、私立の通信制高校ではなく、経済的に困難な状況下にある生徒の多い公立の定時制高校でのプログラム実施を重視したためです。

事業費の人員費は昨年度より3,985,091円増額しています。クレッシェンドを担当する正職員が1名、新しい事業を担当する職員が1名加わったために事業費の人員費が増えています。新事業を進め、既存事業を基盤強化するための一手を打つことができました。

事業費の交通費は昨年度より2,540,781円増額しています。例年の札幌でのクレッシェンドの実施に加えて、岡山の定時制高校でもクレッシェンドを実施したため交通費が上がっています。また2017年1月からスタートしたいごちかふえを週1~2回、比較的遠方の高校で実施したために交通費が上がっています。

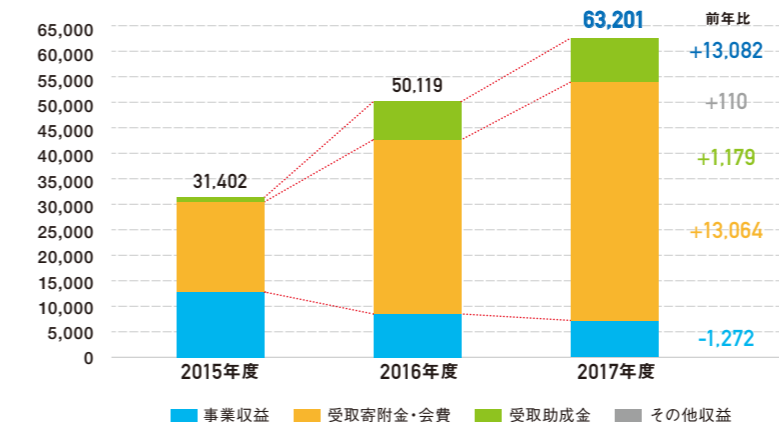
管理部門の人員費は昨年度より3,242,115円増額しています。広報・ファンドレイジング部門の正職員が1名増加し、昨年度よりパートから正職員に変わった経営管理部の正職員が1名いたため、管理部門の人員費が増えています。

管理部門の雑費は昨年度より4,887,257円増額しています。PanasonicNPOサポートファンド様のご助成を原資に、ソーシャルマネジメント合同会社様による経営コンサルに入ってもらい組織基盤強化を行ったためです。また社内合宿や価値規範策定ワークショップを行うなど、経営強化に投資しました。また、経理部門に関してはM&Tコンサルティング様に委託にて連携しながら運営し、より正確な経理業務を実施できるような体制づくりを行いました。

(故)福武純子様より頂戴したご寄付のもと、2016-2018年度の3年間に渡って15,000,000円ずつ寄付を充ててほしいという意向に基づいて今年度も指定の額を指定正味財産から寄付として受け取らせていただきました。

指定正味財産としてワールドチャレンジ募金への寄付もいただいている他、次年度に向けた一手のために次期に繰越しています。次年度は、2017年度に始まった新事業「いきるシゴトをつくる事業部」をさらに伸ばし、新しい構想である「いきる暮らしをつくる事業部(仮)」のための取り組みを始めていきます。

● 経常収入 3期比較 (単位:千円)



この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、認定特定非営利活動法人D×Pの収支を正しく示していることを認めます。

監事 毛受芳高(一般社団法人アスバシ)
理事 塩田陵(ファイナンスアナリスト)
経営管理部 森下裕子
経理代行 株式会社M&Tコンサルティング

D×Pのコミュニティをつくる

D×Pは、この3年で新たな挑戦を行います。

「つながる場をつくる事業」、「いきるシゴトをつくる事業」に加え、新しく「暮らしをつくる事業(仮)」をはじめます。

ひとりひとりの若者が自分の未来に希望を持てる社会をつくるために、

安心して生活できコミュニティの一員となれる場を社会のなかにつくれないか…と考えています。

NEW

（ つながる場をつくる ）

わたしたちは、「人とのつながり」がこの社会を生きてゆく土台となりセーフティネットになると考えます。若者が学校・地域にいながら、自然と人とつながることができる仕組みをつくります。

（ いきるシゴトをつくる ）

この社会には多様な「社会での身の置き方」があるはず。若者ひとりの個性を見つめ、働くことができ、環境と若者をつなぐシゴトをつくるサポートをします。

（ いきる暮らしをつくる(仮) ）

わたしたちは、若者が安心して毎日を暮らすことができる住環境やコミュニティをつくっていけないか?と考えています。家庭内で人とつながることができ、住める場所をつくります。

#つながり #社会関係資本
#ソーシャル・キャピタル
#否定せずに、関わる

#「働く」以外の生き方
#ニート
#高卒就労 #高校生
#クラウドファンディング

#コミュニティ #住む
#経済圏をつくる #dxpコイン
#仮想通貨



クレッシェンド

いごちかふえ

ライブラボ

何かやってみる

新しい仕事をつくる

生徒と企業をつなぐ

安心して暮らせる場所をつくる

ソーシャルワーカー
先生やSW等との外部連携